

専門研究B

特別支援学校(病弱)のセンター的機能を 活用した病気の子ども支援ネットワークの形成 と情報の共有化に関する研究

(平成22年度～23年度)

研究成果報告書

平成24年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

この報告書は、平成 22 年度～23 年度に行われた専門研究 B「特別支援学校(病弱)のセンター的機能を活用した病気の子ども支援ネットワークの形成と情報の共有化に関する研究」の研究報告書である。

病弱研究班では、平成 21 年度までの研究班活動において、全国特別支援学校病弱教育校長会(全病長)、全国病弱虚弱教育研究連盟(全病連)と連携体制を確立し、都道府県単位あるいは都道府県をまたぐ地域単位で ICT (Information and Communication Technology) を活用したネットワークの構築を進めてきた。最近では、特別支援学校(病弱)のセンター的機能を活用することで、小中学校の病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍する児童生徒、小中高等学校の通常の学級に在籍する病気の児童生徒(病気による長期欠席児童生徒を含む)の教育支援を推進してきた。

この 2 年間の研究は、二つの喫緊の課題に対応するものである。一つは、平成 20 年度に当研究所と全病連が行った病弱教育施設調査の結果に基づくものである。平成 18 年度以降、急増している小中学校の校舎内に設置される病弱・身体虚弱特別支援学級担任の病弱教育の専門性向上への支援である。もう一つは、新学習指導要領で取り上げられた精神疾患への対応である。

本研究では、全病連、全病長との協力体制を基に、地域ごとにおける特別支援学校(病弱)のネットワーク化を更に促進し、ICT を活用した病弱教育関連情報の提供体制を構築し、それを基盤として研究を実施するものである。

具体的には、今回の研究計画期間において、上記の喫緊の課題に対応し、①特別支援学校(病弱)のセンター的機能の一つのとして、ICT を利活用し、病弱教育担当教員による病気のある子どもへの教育支援に関する指導事例や領域・教科の学習指導案の蓄積方法、疾患別の教育支援における情報提供に関するシステム構築に関する研究と、②新学習指導要領解説(平成 21 年 6 月)に初めて記述された精神疾患等の心の病気のある児童生徒の教育について、実態と課題を把握するとともに、病弱教育担当教員による情報共有が可能となるための「事例提示・事例記述の方法」のフォーマット(試案)の作成を行った。

本報告書が、病気の子どもの特別支援教育の推進に少しでも貢献できることを願うとともに、この領域の研究の更なる発展のために、ご意見・ご要望を賜れば幸いである。また、本研究を進めるに当たり、ご指導、ご協力いただいた研究協力者、研究に協力いただいた機関の方々に対し、深く感謝の意を表する次第である。

研究代表者 教育研修・事業部上席総括研究員 西牧 謙吾

目次

はじめに	1
1. 研究の背景と目的	3
2. 方法	4
3. 病弱教育担当教員間における病気の子どもの教育情報共有・発信システムの構築	
(1) はじめに	6
(2) 目的	7
(3) 方法	7
(4) 結果	7
(5) 考察	15
4. 精神疾患等の心の病気のある児童生徒の教育情報を共有するための事例フォーマットの検討	
(1) はじめに	17
(2) 目的	18
(3) 方法	18
(4) 結果	19
(5) 考察	32
(6) おわりにかえて	34
5. 総合考察（まとめ）	37
6. 文献	40
7. 研究体制	42
おわりに	43